

郵便
報知新聞
第二號

明治壬申六月

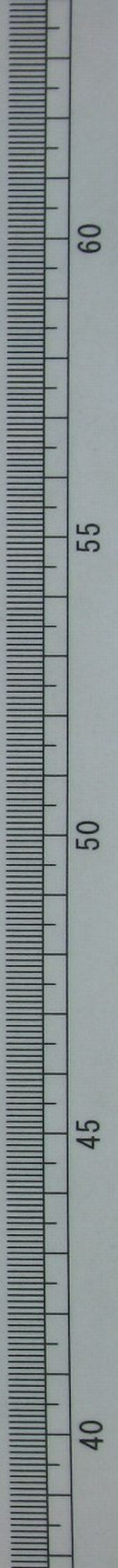
新貨三錢

驛遞察檢

東京横山町三丁目

太田金右衛門

西垣文庫
文庫10
7391
2



特 文庫 70
7391
2

九例

遠近の人民互に性情よく相通し事理よくね違ふは新聞紙小如くは
今故小西洋諸國より文のよき名ある地よりは必ず新聞紙局を設
あてて国内國外と論を以て九百の事務と網羅し併せて奇事異聞瑣
話常談を采用し以て日刊一月刊一週刊一傳布を以て人幾んど家ごと
諭し之を説く概ありて國人甚だこれを便とせざるを今愛し郵便
此新報を刊行す所も廣く遠近の事と我を大に内外の情を通し是
古今此變を知ら先以て喜不禪蓋あらんとと歎を以り蓋一瓶水の氷を見
て天下此寒と知る處なきは此小冊子と見らる亦當今事情の一斑
と窺ふ處なり

西頭文庫



郵便報知新聞第二號

明治五年申六月

○滋賀縣ヨリ報知同縣ニテ為替取立伺書節略
當縣ハ富豪ノ民多ク相應營業致シ就中大商巨賈ト稱
ニ東京箱館松前等へ出店專ラニ交換ノ事ヲ為シ派譜
江州商人ト唱へ世ニ高名ニ候得共以專ラ格自ノ事業
ヲ務メ規模福少彼ノ協同織カ速大ノ事業ニ着眼セズ
是ガ為ノ其匹為世ノ公益ヲ為サバハ固ヨリ當地人
民ノ福利ヲモナリバ畢竟一箇ノ利ニ奔走スルノ徒々
ルヲ免レザル取現在富實ノカヲ有シテカヲ規模着眼

及口所開 第二號

ノ小ナルヨリ其能カヲ尽ス事能ハザルハ實ニ遺憾ノ事ニ御坐候然ルニ人間一般働ノ上ニ関シ最モ緊要ナルモノハ財本トリ此財本ヲ蓄底ニ藏スルキハ人間ノ働ヲ縮ノ財本ヲ流通スルトキハ人間ノ働ヲ延々人間万事此財本ニ依ラザルニ此財本ヲ流通スルハ彼ノ「バンク」ヨリ善ハナシト存候処当縣ノ如キ前条ノ豫況ニ依レハ最モ「バンク」必用ニ有之就テハ縣下ニ從前公許ヲ蒙リ居候為替會社ノ者僅ニ營業イタシ候ヘドモ未ダ前件緊要ノ用ヲ為サズ依テ令般更ニ規則ヲ立百万兩ヲ積立サセ則チ江州ニシテ一為ニ大ハ天下

ノ公益小ハ当縣下人民ノ福利ノ謀ラニメニ一存候ニ付テハ別紙ノ通願出候ニ付進達仕候

○供奉秘史局ヨリ海軍省秘史局ニ來書

五月廿三日第八字三十分離宮ヨリ

御兼船六字三十分御本艦ハ

御移兼第七字余公御掃リ七字二十分祝砲執行八字四

十五分枝船出船ス第一丁郊艦水路嚮導次ニ御本艦

日進鳳翔雲揚孟春春日筑波有功丸等此日ハ右順序正

度航海ス午後一字五十五分金田湊相模崎間ニ御本艦

右舷錨ヲ下ス二字十分諸艦長御本艦ニ來ル有功丸

ハ前行ス廿四日曉第二字金田湊出發ニコト燈臺夫ヨリ遠州灘ニ止ル東南風少シク起ル午後三字四十分雨来ル五字針位西ニアリ夜ニ入テモ風雨不止翌世五日朝第八字志州島羽港ニ投錨ス品海御發以降今日ニ至ルマテ海上風濤之憂ナク所謂遠州難モ平穩ニ今廿六日伊勢内外宮御恭拜被為齋明廿七日第五字當所御發輦鳥羽ニテ御本艦江乘御大坂ニ御回艦御都合ニ有之候尚大坂御着艦上ハ委詳御報知可申概畧申進候也

七申五月廿六日第八字

○六月三日午後第四字到末身状の写

五月廿六日野山田ヨリ報知及ハ後同月廿七日才五字山田行在存ト所登輦才六字大湊ト所乗船才七字十七分才一丁卯艦小西移リ才九字五十分鳥羽港ニ着才十字十分本艦ニ無才十一字四十分五分猶海港同廿八日午前才九字紀之田迄日所崎ホト過ル才十字三十二分魯西並軍艦御本艦の傍と過リし炮敷二十一度と祝才午後才五字淡海岩屋岬小邊過テ才七字艦隊去リ大坂天保山沖ニ投錨大坂ヨリ小莖三艘と以テ迎ヘ大テ了了ト有ハ乗取ニ後各

艦より祝砲と發するものと例の如く九字夷嶋運上
 一内揚陸外務省の張所一内小休臺兵研兵ホ奉備才十
 字十分西水預吉行在在、内着輦府下通内の花西切
 装、お乙の人民道、海へ、内着輦と歡おす、内着
 艦より、弟、着、海、内、合、百、事、殘、交、
 天、操、も、互、極、驚、く、内、同、交、少、く、内、
 て、明、晦、の、内、上、系、の、苦、ハ、索、尚、巨、細、ハ、追、く、可、及、内、報、告、
 ヲ、
 ○壬申三月二日北海道「ノ」コナ「イ」小於て護送船、
 丸沈没の事とよつと報告

二月廿九日午後五字十分東系丸船品流と出帆一
 たり、お、お、お、風、面、の、憂、ハ、は、違、え、ざ、れ、ど、日、最、霧、
 濃、く、た、り、初、て、三、月、初、日、晚、才、四、字、六、分、奥、出、花、山、の、霧、
 と、過、ぎ、午、後、才、十、二、字、五、分、鞆、崎、へ、入、港、一、回、六、分、回、所、
 と、出、港、せ、し、が、霧、益、々、濃、く、咫、尺、も、無、す、能、く、戻、り、
 二、日、五、分、才、八、字、四、十、分、霧、漸、少、く、晴、れ、て、山、の、姿、
 見、つけ、れ、バ、鬼、谷、崎、あ、る、と、を、知、り、た、り、
 て、九、字、十、分、針、海、と、北、小、東、上、階、ト、航、す、る、と、十、分、又、
 針、海、と、西、小、東、階、ト、首、地、へ、向、て、航、行、せ、し、才、十、二、字、
 五、分、忽、然、激、浪、の、響、と、交、り、れ、を、大、急、に、運、船、と、止、急、後、

長口新聞 第二號

進方向と波とを指し、たゞりれども前進力激しく
 して速く進行をば、船も波に衝き、船の衝き
 と破りたり。よつて漏水を防かんがたき、力を尽し
 たりけれどもその切あつて遂に沈没せり。さて此舟を
 尋らうその走力甚速をり、計するに平均八里まな
 りと雖も潮水の満干とありて懸慮すれども月初大波の
 此十字より十二字比ちでは相お波戸西より東に流る
 る激の勢力尤も盛あり。此一は此船より進激とす。お
 れおため船の進み必ず遅延あらんおとを推美し平均
 里數の一里まなと減し走力七里と目算ければ午後才一

字塔首の近傍に航すべき相的ありし、小堂の料りん、才
 十二字五分ノコナ、近傍より礁に觸り沈没せり。お
 れ今之霧を濛として、西更に相標あり、指ふる計
 後以西に塔首の方向すれど、進激の力強盛あるが由、
 波の過るに、小浪を、走力の遅速と違異せしよ、わ
 ○米利堅国に、船を以て、鹿兒嶋縣高橋村吉より前島氏
 に贈る、一、船の大要
 僕、或る米人とく、く、の、あ、つ、一、ある、物、米人の云
 ひ、ある、八、日、ある、ハ、昔、より、國、辞、あり、又、爰、易、ある、仮、名
 あり、る、よ、何、と、て、定、ま、り、たる、語、法、あり、兒童と教ゆる

文典もあらず遠ある漢字を引いてありやうに學問を
 切つてくくする人の知識を略せしむや或は仮名字
 西洋の文字より一層便利なる所あれは終く其聯
 合愛他の規則哉西洋字の如く立てて一般に通用
 ひ漢字を廢せざるゝあるは西人文化の進歩を以て
 九かひある今洋化の進むを求めあぐり漢字を
 力を盡や一人の知識哉非く捷徑を棄てざるあると
 して西語を木馬の虫哉本中々求むる如くはざるに
 して西語を其多しとてはる所漢字少ある或は
 して西語を其多しとてはる所漢字少ある或は
 して西語を其多しとてはる所漢字少ある或は

一文明の化は進歩しとてはる吾邦人も其化は
 思つども其用非致妨るるは漢字の障礙を以て少
 りはば其故ハ學問進歩を趣意ハ人の知識を非ざる此
 安全を謀るためとして不致づるべき文章致學ふハ
 此法宜しく固有此國語に依りて容易く道理を解得る
 の法を立つて然るに無益の力漢字を盡さハ吟木
 鳥の喙と能ざるゝ矣あるはと怪りしはくは僕は漢
 語を考ふるゝ年久しと用ひ来り漢字と盡し廢し
 僕等のめざすは漢字を以て之を知識を以たる者
 今より俄に漢字を以て之を知識を以たる者

たふ者ハ多ク其日ニ随ヒ喜ぶ輩ハハ其の漢學と教
ブ以國字^{カキテ}又の法則^{ホドク}を定めてみれを著^{カキ}く教^{カキ}導^{カキ}一^{カキ}者^{カキ}後
ハ學術^{カキ}城^{カキ}守^{カキ}の^{カキ}法^{カキ}則^{カキ}を^{カキ}定^{カキ}めて^{カキ}み^{カキ}れ^{カキ}を^{カキ}著^{カキ}く^{カキ}教^{カキ}導^{カキ}一^{カキ}者^{カキ}後
新^{カキ}の^{カキ}創^{カキ}建^{カキ}一^{カキ}た^{カキ}る^{カキ}る^{カキ}あり^{カキ}僕^{カキ}も^{カキ}今^{カキ}以^{カキ}後^{カキ}活^{カキ}を^{カキ}付^{カキ}て^{カキ}始^{カキ}て^{カキ}其^{カキ}程^{カキ}
境^{カキ}悟^{カキ}り^{カキ}た^{カキ}る^{カキ}ハ^{カキ}能^{カキ}く^{カキ}多^{カキ}く^{カキ}一^{カキ}プロ^{カキ}ン^{カキ}の^{カキ}辞^{カキ}也^{カキ}我^{カキ}利^{カキ}弘^{カキ}一^{カキ}た^{カキ}る^{カキ}
時^{カキ}より^{カキ}漢^{カキ}字^{カキ}の^{カキ}用^{カキ}法^{カキ}を^{カキ}英^{カキ}和^{カキ}一^{カキ}の^{カキ}用^{カキ}法^{カキ}を^{カキ}今^{カキ}より^{カキ}あり
て^{カキ}程^{カキ}を^{カキ}笑^{カキ}ふ^{カキ}づ^{カキ}を^{カキ}知^{カキ}り^{カキ}ぬ^{カキ}づ^{カキ}を^{カキ}用^{カキ}ひ^{カキ}て^{カキ}耻^{カキ}ぢ^{カキ}む^{カキ}ハ
實^{カキ}に^{カキ}笑^{カキ}止^{カキ}め^{カキ}る^{カキ}云^{カキ}々

○五月十日九段坂招魂社落成その月十五日より例年
の祭典あり惟みるは令成距る二三年前は扱下の形跡

察して此社又多るりあり多く却る此社を蔑視す
るに至りてあはれ又賽するりありは僅に西隣各藩
有志のりり昔を追思て涙を拭ふのみあり一
新社既成り友人庶民を問うて陸陸續續して通衢紅
塵を起しその景況は予の比にあらずして此大祭は正
月三日五月十五日九月十八日の三回又て即ち伏水上
聖箱館の大事件の日あり

○英人某より英学女学生某へ語りたる語
英國にて書生とあり世の事務は志あるも乃は今の女
王上院は出席の状と云。上院は下院もある人負の内儀

人う結之政子学又進せりやと聞ひあ徳の情態如何を
已。海陸軍の制と尋ね。法律局の状と聞ひ宗門の旨と訊
少等と以て要務とせり其訳は箇撮ある意あふはして
唯政子学を建物の美を觀るのみあては看戲あもか
よぼト然もいも真の政体制度等の意味を合點せし看
戲の楽しみは火又突あれば出さるるそのは終くは
あふよ注意ありはししと

報知新聞第二號終

今般郵便報知新聞刊行の旨趣は遠く隔る國に其物情を互にお傳せしめ且府下
小生する細太なる實各地に相知らしめんとす依るを好む者も亦不存申善以の貴譽を
暴徒に捕縛機械産物の新著の警報系統紡糸器陶器米穀桑茶其他の諸品製造
耕作の爲害甚且凶雷風水火の災難を暖氣候に速く知らせしめしめり多尙そ
は皆夫くに等記して聊文體虚飾を加へを時り代載て是を證し發兌人及び賣
私所小送り越へ給はん事代希ふ
一郵便報知新聞一冊價新貨三錢毎月五号宛出板
當時發兌号より先廿冊分引受後向去一割引
同四十冊分ハ一割半引
一々年分引請の向ハ二割引

右之通割金お定金郵便賃は取候上毎号發兌順存と通し郵便賃にては在可申候

東京横山町三丁目
發兌人 太田金右衛門

